

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日（土）～12日（日）

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

ワークショップ 20	
企画名	教科書には載っていない乳児健診の極意続編 — 経過観察で診るべきポイント
日時	2016年6月12日（日） 09:30～11:30
会場	第10会場（台東区民会館 8階 第3会議室）
企画責任者	土田知也（川崎市立多摩病院 総合診療内科）
定員	24名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】 乳児健診で感じている疑問を解決し、日常診療に活かすことができるようになること</p> <p>【概要】 乳児健診のマニュアル本は多く出版されており、各月齢に応じた診察やよくある両親からの質問への対応は学ぶことができます。しかし乳児健診を実践してみると、病院へ紹介するべきか、経過観察でよいのか、いわゆるグレーゾーンに遭遇することが少なくありません。経過を診ましようといったものの、その後変わりがなく、結局病院へ紹介となりモヤモヤした経験はないでしょうか？ 本WSは前回の学術大会で好評を頂いたWSの続編となります。前回のテーマで取り上げた、「7か月健診 寝返りをしない」や「4.5歳時健診 落ち着かない」などのケースを経過観察とした後、どのようにfollowしていくべきか。小児科専門医より、絶対に見逃してはいけない点、経過をみていてよい点、両親への上手な説明方法など、健診後のfollow up方法を中心に極意を伝授します。復習も兼ねてのワークショップとなるため、前回の参加者も、今回初めての参加者も満足のいく内容構成としました。</p> <p>ワークショップの内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. 前回のWS内容をふまえた乳児健診の極意 QandA2. ディスカッション内容の提起3. 各チームで発表と追加コメント4. ミニレクチャー5. まとめた内容を後日、参加者全員へメールで送ります	